



「ネット人権侵害と
部落差別の現実」

3月13日(日)



人権確立をめざす鳥取県民集会で、「ネット人権侵害と部落差別の現実」と題して、山口県事件啓発センターの川口泰司さんが講演されました。川口さんは、現在のネット環境について解説。最近の差

別事象はSNS等ネット上で起こっていることが多く、間違った情報が悪意をもって流される場合が7割の状況です。しかし、法律が理念法なので規制がなく無法地帯であり、子どもの調べ学習や行政・教職員にも影響が出ています。

こうした中、今後の啓発活動では悲観するばかりでなく、差別の現状とこれからの展望をセットで教えていく必要を強調されました。

また、差別を乗り越えた若者の例についても話され、乗り越えられた人の多くは「同和教育を受けていた」「周りに相談できる人がいた」という結果が出ています。

無自覚に差別したり、無意識に偏見を持ったりするケースが増えている状況で、顔の見える人権・部落問題学習が望まれています。本町でも、相談窓口として各種団体と連携を取るなどして差別を見逃さない、見過ごさない姿勢を大事にしていきたいと感じる講演でした。

職員等人権同和問題
研修会を開催しました

3月20日(日)



ほのほのひだまりホールを会場に、鳥取市人権情報センター研究員の衣笠尚貴さんを講師に研修を行いました。



講師の衣笠尚貴さん▲
研修会の様子▶

講演は、「ネットモニタリングから見えてきた部落差別」がテーマ。ネットによって便利になった反面、その匿名性により、以前に比べ差別が見えにくくなっている現状が再認識できました。実際にネット検索を行い、削除事例をまじえた説明だったので、ネットモニタリングを知らない人にもその意義や必要性がよく分かる内容でした。

参加者からは「ネットの普及によって、差別が見えにくく複雑化していることが理解できた」「興味本位ではなく正しい情報を知るためにネットモニタリングが必要だ」などの意見が出ていました。

差別は当事者だけの問題でなく、差別を指摘できる人になる努力を重ねる必要があるということを今回の研修で学ぶことができました。

